

# 益田清風高 盛り上げよう



## 来年で100周年



小林会長と金子副会長に寄付金の目録を手渡す中川社長＝益田清風高提供  
①十六銀行益田支店のショーウィンドーに飾られている清風百年新聞＝いずれも下呂市で

下呂市で唯一の高校、益田清風高が来年で百周年を迎えるのを前に、節目を盛り上げようという動きが市内で広がっている。地元企業は百万円を寄付し、金融機関には生徒が作った「清風百年新聞」が掲示されている。

のは、同校近くの十六銀行益田支店のショーウィンドー、益田信用組合の本店と萩原支店の店内。一九二四（大正十三）年に前身の益田農林学校が誕生した経緯や、戦時下の学校生活などを記した一―三号が読めるようになっている。

寄付したのは、住宅用ドアメーカー「ハウテック」（同市少ヶ野）。全社員の二割ほどが同校、統合前の益田高と益田南高の出身といい、「何かの役に立てれば」と寄付を決めた。中川正之社長が十二日に益田清風高を訪れ、同窓会の小林正和会長と金子文一副会長に目録を手渡した。自身も卒業生の中川社長は「地域になくはならない存在。百周年を微力ながら応援したい」と話した。

百年新聞は、百周年の年に三年になる二年の実行委員が昨年十一月から順次、制作。終戦以降の激動期の学校の状況などを特集した六号まで完成している。近く各店舗の掲示を入れ替えるほか、市役所などにも置かせてもらうよう依頼する。同校百周年記念事業事務局の横山和樹教諭は「生徒が作った新聞を通して、学校の歴史を多くの人に知ってほしい」と述べた。

### 地元企業寄付 生徒制作の「新聞」掲示

（上田千秋）

益田清風高が  
来年度100周年

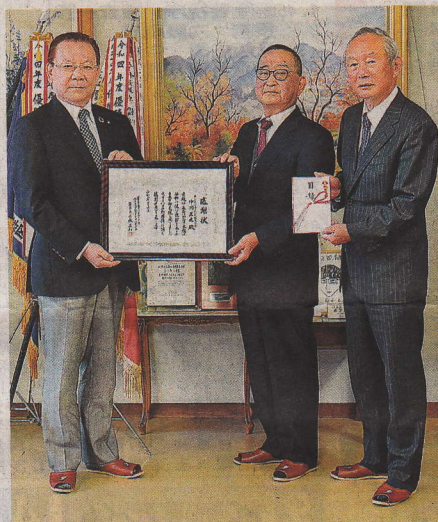
### ハウテック100万円寄付

2024年度に創立100周年を迎える下呂市萩原町萩原の益田清風高校で、建具製造のハウテック(下呂市少ケ野)が12日、創立記念事業へ100万円を寄付した。

同校は1924年に開校した益田農林学校が前身。2005年に益田高校が益田南高校と統合し益田清風高校となった。

100周年記念事業として、正門と門の扉、フェン

スの整備を計画。寄付を募っており、企業からの寄付は初めてとなるという。中



川正之社長(69)が、記念事業実行委員長を務める小林正和同窓会長(70)と金子文一同会副会長(72)に目録を手渡した。  
小林会長は「一丸となって記念事業を盛り上げる弾

みにしたい」とあいさつ。中川社長は「社員の20%ほどが、益田南高校を含む同校の卒業生。同校は地域になくはない存在。100周年記念事業を微力ながら応援したい」と話した。

(広瀬丈士)

目録を小林正和同窓会長(中央)と金子文一同会副会長(右)に渡した中川正之社長＝下呂市萩原町萩原、益田清風高校